

海外の話題

香港市場に見る日本農林水産物の実力

— 日本農林水産物の輸出国 No. 1 —

農林中央金庫 前香港駐在員事務所長 松 尾 章
(現 外為業務管理部副部長)

わずか人口 7 百万人の香港は、2007 年以降、日本の農林水産物輸出市場で世界一の行政単位（香港は中国本土と区別された行政単位という意味で）となっており（図表 1）、統計的にいうと日本の農林水産物輸出額の約 2 割弱が香港向けです。農林水産省は 2013 年（平成 25 年）までに輸出額 1 兆円構想を掲げてますが、香港市場は、その達成においても最も貢献できる有望な行政単位ではないでしょうか。

ご存知の方も多いと思いますが、今年正月の築地初競りで青森県産「まぐろ」を最高値で落としたのは 2 年連続で香港の寿司チェーンオーナーでした。香港では昨年度当方で把握しているだけで 17 件の日本農林水産物に関する商談会等が各県レベル中心（JETRO 等の協力）に開催されてますが、実に月 1.4 回という頻度です（図表 2）。それだけ日本の農林水産物は香港人の目に触れ、舌に乗る機会も多いわけです。

図表 2 のとおり、日本各県とも観光誘致とともに、県内特産農林水産物を香港に紹介し、販路拡大に注力してます。このように各県とも県内農林水産特産物の香港での販路拡大がその主目的でしょうが、香港の場合「日本食」は安全、美味しいというブランド化が確立しており、相対的に高価でも販売力があることで相応の流通拡大が期待できます。さらに、香港でのブランド化を確立した後背後の一大市場メインランド（中国本土）へ浸透していこうとすることも大きな狙いの一つとなっております（香港でのブランド確立はその後の中国本土進出にかなり有利に働くことが背景）。

香港は自由貿易立国で、世界各国から多くの農林水産物が輸入されております（ちなみに香港在留外国人の国籍は約 40 カ国になると言われています）。地理的近さ、食習慣が同じということから中国本土からの輸入が一番多いのは当然として、安さでは太刀打ちできない日本の農林水産物は食品の品質力というブランドで他国を圧倒しているところです。

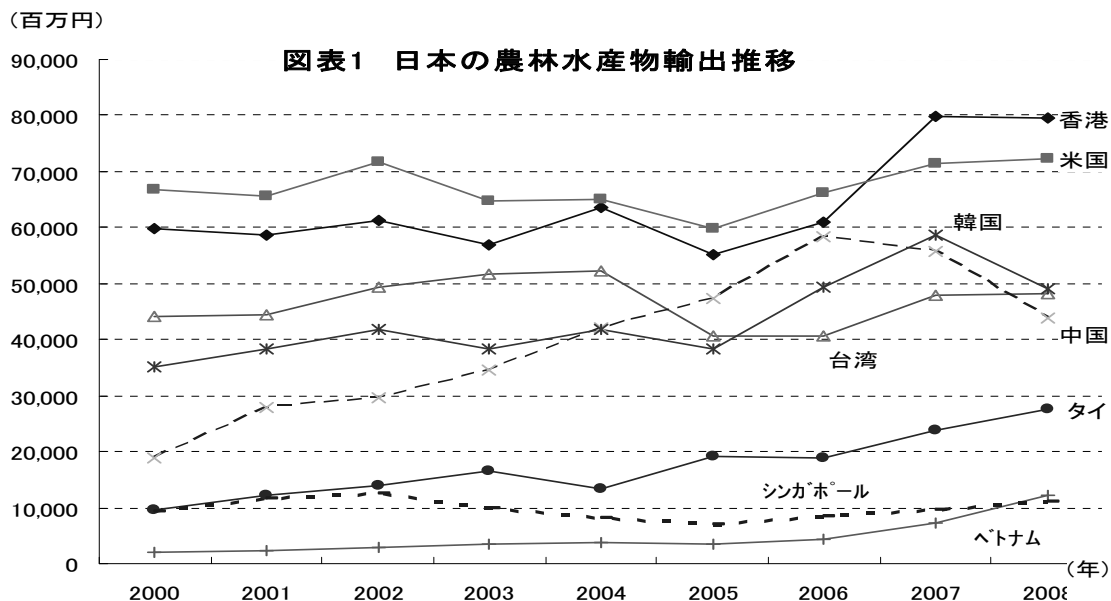
香港の食品輸入国 1 位は中国本土、2 位は米国、3 位ブラジル、4 位豪州、5 位に日本（07 年香港統計処調べ）と日本以外上位輸入国はすべて世界でも有数の農業生産国ですが、そのなかで日本も大健闘です。一つの事例として最近日系スーパーで観察したことですが、青森県産りんご「富士」1 個の値段（約 160～170 円程度）と中国産「富士」4 個の値段がほぼ同じです。味覚の品質による違いもさることながら、色合い、大きさなどを見てもやはり日本の富士が「美しい」。観察していても日本産のほうがやはり売れています。日本産巨峰なども日本人にはなかなか手の出ない値段（イメージとして化粧箱に入っている値段）にもかかわらず、香港人はふつうに買っていきます。自ら食するという以外に、その美しさから贈答用としても大人気なのです。

また、日本農林水産物の優位性については、そのブランド力のほかに、地理的な近さや（香港から日本への定期航空便は毎日 16 便（成田、中部、関西、沖縄）、また、これは「新鮮さ」にとっても重要）、季節感のある食材、香港人の日本ブランド好イメージ、買物という日本観光目的も大きな役割を果たしていると思われます。つまり、香港人は日本観光で美味しい日本食に触れることで、その味覚を持ち帰りますが、当地「日本食」フェアでの香港人の購買動向が、その後の日本食の売れ筋情報として十分役立つわけです。

また、香港人の日本訪問観光客は 43 万人程度（07 年）で訪日目的の 7 割が買物となっていることから、こうした情報の重要性が理解できるのではないかと思います（ちなみに日本人旅客は 1.3 百万人：同年）。今年香港と日本は「日港観光交流年」を開始、双方の観光促進を図ることにしていますが、これも日本および日本食への関心拡大にさらに一役買うのではないかと期待されるようです。

また、最近香港政庁職業訓練局傘下の「旅遊服務業培訓發展中心 (Hospitality Industry Training and Development Centre)」(料理専門教育機関：除く中華料理) では、日本料理コース設定を決定しました。当該学院（盧当学院教授）では、日本食の見た目の美しさ・季節感・料理手法の多様性（蒸す、炒める、焼く、なま）・衛生管理などその料理手法の質の高さに注目、香港人の日本食への関心の高さも相まって香港における和食のスタンダードを普及したいという主旨のようです。

こうした日本農林水産物の優位性活用については、在香港総領事館、JETRO 等を中心にビジネスマッチングなど販路拡大努力を推進しているところですが、やはり問題点もいくつかあるようです。当然、食の安全性にかかる相手国との環境整備、物流コスト、値付け、関係者の損益分岐点、取扱商品内容等直接ビジネスに関する課題もあると思われますが、日系スーパーで伺ったところでは、日本食材情報ルートは、まだまだ限定的で必ずしも十分な業務拡大展開まで至っていないとのことでした。こうした課題を克服することで日本の農林水産物は更なる販路拡大の期待が持てるのではないかと思います。我々としても行政単位（特に県段階）へのさらなる働きかけ、お互いの情報発信が必要ではないかと思った次第です。



図表2 2008年4月～2009年3月までの県単位自治体等のイベント

年	日付	イベント名	主催	会場	内容
08年	4月4日	沖縄フェスティバル in 香港	沖縄県、えんグループ	えん	香港-沖縄便就航を記念して3ヶ月に渡りイベントを開催。
	4月24日	日本の地酒を楽しむ会 in 香港	友士(香港)有限公司	日本人倶楽部	一般人向けに開催された地酒の会。
	7月2日	瀬祭試飲会	旭酒造	SOHO	山口県のお酒「瀬祭」のPRのために、食品関係者およびメディアを集めた試飲会。
	7月18日	お酒の会試飲会		niji	詳細不明。
	9月3日	第16回鹿児島・香港交流会議、貿易商談会	鹿児島県		当交流会議は1980年から2年に1回双方で相互実施されてきたもの。県サイドからは知事、県議会議長以下、香港サイドは民生事務局長官、観光発展局幹部出席。県産食肉、調味料、焼酎、お茶など出品。
	9月23日	北海道商談会 in 香港2008 (第1回)	JETRO	ホテル日航香港	香港での恒常的な販売ルートの開拓を目指す北海道企業22社が参加。これまでは、台湾で開催されてきたもの。海産物、ワインなど出品。
	10月20日	第2回日本産農産物商談会	日本農業法人協会、香港貿易発展局、(協賛)三菱東京UFJ銀行	日本人倶楽部	日本産の農産物紹介し、ビジネスマッチングの場を提供する商談会。日本農業法人協会傘下の23社と香港サイド30社強が参加。香港サイドからは大手レストラン、カインックチェーン、ホテル、百貨店、スーパーなど参加。日本サイドの出展は野菜、果物、畜産品、米、お酒など。今後シンガポールでも開催検討。
	11月7日	飛騨牛試食会	岐阜県農林水産物輸出促進協議会	日本人倶楽部	飛騨牛の海外販路開拓とブランドの確率を目指しての試食会。政府関係者、メディア、飲食関係者向けに開催。
	11月22日	長野県フェア	長野県	一田	一般人向けに長野の物産をPR。
	11月26日	山形・宮城・食品試食商談会	山形県・宮城県・JETRO	日本人倶楽部	米など特産品を扱う20社が参加。香港および広州地域進出の礎を築くのが目的。香港サイドはスーパー、商社、飲食店など。山形からは米、ラフランス、ワインなど、宮城県からは水産物(マグロ、しめさんま、しらす干し、仙台牛、味噌など)。
	12月17日	四国・愛媛物産展in 香港	愛媛県・JETRO	一田	愛媛県は、香港で初めて物産展を開催。県から柑橘類(「紅まどんな」ほか)、柿、キウイ、干し柿など。
12月	岩手フェア	岩手県	イオンストアーズ	物産展。11月19日にはプレイベントとして、日本人倶楽部にて農水産物および観光プロモーションイベントが開催された。	
09年	2月11日	千葉フードミッション	千葉県、香港貿易発展局	ホテル日航香港	千葉県初の海外食品商談会。県産品(落花生、水産品:イセエビ、アヒ、菓子類)出品。香港サイドから商社、小売など約50社参加。成田空港を最大限生かす戦略。
	2月16日	沖縄県食品試飲・試食商談会in 香港	沖縄県	日本人倶楽部	沖縄県初の本格商談会。沖縄県から泡盛、畜産品などを扱う15社出展、香港サイドバイヤー24社参加。
	2月19日	第2回栃木県産農産物等展示商談会 in 香港	栃木県	サウス・パシフィック・ホテル (南洋酒店)	同時期の栃木物産フェアに合わせ、香港の食品バイヤーやレストラン関係者にPR。「とちおとめ」、「にっこり」などブランド化狙う。
		栃木県物産フェア	栃木県	一田	一般人向けに栃木の物産をPR。
	2月26,27日	霧島高原純粋黒豚を食する会	Quality Food Express(輸入代理店)、霧島高原ロイヤルパーク(生産者)	中信大廈	黒豚の認知度が上がる香港で、鹿児島ブランドの黒豚の地位を確固たるものにするためのPRする会。食品関係者、メディア向けのイベント。
	3月17日	宮崎県セミナー	宮崎県	ホテル日航香港	観光地としての宮崎をメインに特産物のPRも。JUSCOで同時開催された宮崎県物産展に合わせたもの。PR品目としては、マンゴー、柑橘類(日向夏)、さつまいも、鶏肉、焼酎など。
宮崎県物産展		宮崎県	JUSCO	一般人向けに宮崎の物産をPR。(宮崎牛、漬物など)	

(出所:コンシェルジュ香港、nna香港)